

平成 31 年度使用高等学校
(第 1 部)
教科書編集趣意書
外国語 (英語表現Ⅱ) 編

目次

	ページ
002 東書 NEW FAVORITE English Expression Ⅱ	1
061 啓林館 Vision Quest English Expression Ⅱ	3
109 文英堂 UNICORN English Expression 2	5
109 文英堂 Grove English Expression Ⅱ	7
220 スクリ SCREENPLAY English Expression Ⅱ	9
226 チアーズ ATLANTIS English Expression Ⅱ	11

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
2 東 書	英 II 301	<p style="text-align: center;">NEW FAVORITE English Expression II 代表著作者 中邑 光男</p>

■編集の基本方針と留意点

①事実や意見などを多様な観点から考察し、相手や目的に応じた表現方法を工夫しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

- ・コミュニケーションを図る際は常に「相手」（＝読み手、聴き手）と「目的」（＝ジャンル）が存在することを生徒が意識できるよう、各 Lesson のモデルとなる Target では明確に場面を設定した上で、目的に応じた英語表現を盛り込み、それに関する留意事項を示した。
- ・各 Lesson で扱うトピックは、学習指導要領に掲げられた「言語の使用場面と働き」を考慮しながら、必要かつ適切なものを多様に取り入れた。
- ・各 Lesson の On Your Own においては、これらのモデルに沿うことにより、生徒の負担にならぬよう、また、積極的に言語活動に取り組むことができるよう工夫した。

②論理の展開や表現の方法を工夫しながら、情報や自分の考えなどを的確に伝える英語表現力を伸ばす。

- ・生徒が情報をまとめたり、自分の考えや意見を述べたりする際の効果的な論理展開や表現の方法が習得できるようにした。特に Part 2 においては、エッセイ・ライティング、プレゼンテーション、スピーチ、ディベートそれぞれに特化した Unit を設け、重点的に指導できるように工夫した。
- ・歴史的に有名なスピーチ（Unit 2～5 末）や社説（Unit 6 末）をそれぞれ Great Speech Archive および Great Editorial Archive として取りあげ、スピーチやライティングのすぐれた例を鑑賞することで、それぞれの構成法や表現を学ぶことができるようにした。さらに、スピーチやライティングの特徴を深く分析できるような Task を設け、生徒の自己表現活動の際のモデルとなるよう工夫した。

③多様なトピックやジャンルに関する語句や表現を身につけ、目的に適った文構造・文法項目を自ら選び、積極的に発信できるコミュニケーション能力を伸ばす。

- ・生徒が言語活動を行う際のヒントとなるように、各 Lesson の例文や練習問題などは、原則としてその Lesson のトピックに沿った内容の英文で作成した。
- ・Part 1（Unit 1～5）に関しては各 Lesson 内で提示された語句や例文に加えて、各 Lesson のトピック内容に対応した Expression Resources を巻末に設け、その中の Expression Park に生徒が Target を自分の立場で応用する際に役立つ新たな語句や表現を掲載した。これらの補充資料によって、各 Lesson のトピックに関する語句や表現力を強化することができ、生徒の自己表現活動の場である On Your Own を無理なくこなすことができるようにした。

■教材配当一覧

L	トピック	ジャンル	文法項目
Unit 1 身の回りのことを表現しよう			
1	School Uniforms	学校	動詞・時制
2	Online Addiction	健康	助動詞
3	Companion Animals	ペット	受け身
4	Why Homework?	勉強	準動詞
Communication Workshop		How to Use <i>Furoshiki</i>	
Unit 2 あなたと社会のつながりを表現しよう			
5	My Future Career	職業	比較
6	Volunteer Work	環境	関係詞
7	Barrier-free Society	社会	仮定法
8	Japanese Longevity	食生活	無生物主語・名詞構文
Great Speech Archive		You Can Change the World!	
Unit 3 社会のことを表現しよう			
9	Universal Signs	公共	名詞・冠詞
10	Color and Food	心理	代名詞
11	Digital vs. Analog	テクノロジー	形容詞・副詞
12	Living Language	言語	前置詞・接続詞
Great Speech Archive		The Great Dictator	
Unit 4 パラグラフを考えようーパラグラフ・ライティング (1)			
13	Visiting Australia	パラグラフの構成と書き方	
14	My Hero	主題文と支持文	
15	Are You Ambitious?	事実と意見の区別	
16	Dennis the Menace	時間の順序	
Great Speech Archive		I Have a Dream	
Unit 5 パラグラフを書こうーパラグラフ・ライティング (2)			
17	Robopets	例示	
18	A Tale of Two Cities	比較と対照	
19	Keep Fit	意見と理由	
20	SNS	原因と結果	
Great Speech Archive		Stay Hungry, Stay Foolish!	
Unit 6 パラグラフをつなげようーエッセイ・ライティング			
21	The Internet and Our Lives	アウトラインと構成要素	
22	Cell Phone Etiquette	序論と結論	
23	Energy	本論	
24	A Second Look	推敲	
Great Editorial Archive		Is There a Santa Claus?	
Unit 7 相手に確実に伝えようースピーチとプレゼンテーション			
25	Welcome to Osaka	スピーチの種類と構成要素	
26	Three Great Things	スピーチの実演	
27	Fly to the UK	プレゼンテーションの種類と構成要素	
28	What Makes You Smile?	プレゼンテーションの実演	
Unit 8 意見を交換しようーディベート			
29	Let's Debate!	ディベートの概要	
30	Making Constructive Speeches	立論 メリットとデメリット	
31	Refuting Your Opponent's Arguments	反駁	
32	Summarizing Your Position	まとめ	
Debate Workshop		Let's Try a Mini-Debate!	

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
61 啓林館	英Ⅱ 307	Vision Quest English Expression Ⅱ 代表著作者 野村 恵造

● 編集の基本方針

英語表現Ⅰで身に付けた発信能力をより向上させるため、次のような方針で編修を行った。

- (1) さまざまなトピックについて表現する機会を、各レッスンに設ける。
- (2) 文法・表現・語い・文の構造・文章の構成について学びつつ、それらの知識を統合して表現力を養成することをめざす。
- (3) 生徒間の自発的なやりとりを促し、より高度なコミュニケーション活動が行えるよう配慮する。
- (4) 正しい英語から自然な英語、さらに、より洗練された英語の習得をめざす。

● 特色

- (1) Part 1 では、各課の最後に生徒自身が文章を作成するタスクとして GOAL!を設定し、最初にあるモデル文や、それぞれのトピックに対応する巻末の Words & Phrases がそのためのヒントとなるよう工夫した。各課の Exercises 3 の和文英訳問題も GOAL!のヒントになっている。巻末には、より手助けが必要な生徒のために GOAL!の作文例を掲載した。
- (2) Part 1 は「主語を決める」「動詞を決める」などのセクションから成り、英文を作る際の発想と手順がそのままレッスンの順となる構成とした。各課の Study Points と Exercises で単文の作成について学び、その知識を利用して GOAL!で文章の作成を行うことにより、ある程度まとまった分量の英文を書く能力を段階的に向上させることをめざした。
- (3) Part 1 で身に付けた文章の作成能力を、より洗練されたものにするため、Part 2 ではパラグラフの構成について扱い、論理的な文章作成能力を養うことをめざした。
- (4) Part 1, Part 2 で身に付けた英文作成能力と自己表現能力をインタラクティブに活用しつつ、自分の主張を述べるだけでなく、他者の意見や考えをよく聞き、発展的なコミュニケーションができるよう、Part 3 ではプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートを扱った。
- (5) Grammar Focus 1, 2, 4 では、日本人が英文を作る際に間違いやすい「名詞と冠詞」「主語と動詞の呼応・時制の一致」「前置詞」について解説し、演習を設けた。Grammar Focus 3, 5 では、より英語らしい表現方法が身に付くよう「英語の情報構造」「丁寧表現」について解説し、演習を設けた。
- (6) Part 1 の各課で身に付けた英文作成の能力を、ストーリーテリング、ロールプレイ、ブログを書くといった状況で活用する機会として Activity for Communication を設けた。また、数に関して正確に情報を聞き取る力を育成するため、Activity for Communication 3 では数字の聞き取りについて集中的に学ぶ機会を設けた。Activity for Communication 5 は情報を図表から読み取る力を養成するために、グラフについて学ぶ機会とした。

● 教科書内容の配列

Part 1	主語を決める	Lesson 1 お花見 Lesson 2 漫画の楽しみ	
	Grammar Focus 1 名詞と冠詞 Activity for Communication 1 Storytelling		
	動詞を決める	Lesson 3 京都へ観光に Lesson 4 私の家族です Lesson 5 保育園での職業体験 Lesson 6 サプライズパーティー Lesson 7 映画のお誘い	
	Grammar Focus 2 主語と動詞の呼応・時制の一致 Activity for Communication 2 Role-Playing		
	動詞の形を決める	Lesson 8 航空管制官になる Lesson 9 趣味はピアノ Lesson 10 『タイタニック』を見て Lesson 11 世界遺産の魅力	
	助動詞を使う	Lesson 12 ボランティア活動	
	Grammar Focus 3 英語の情報構造 Activity for Communication 3 Listening for Numbers		
	修飾語を加える	Lesson 13 制服に賛成？ 反対？ Lesson 14 ローマの魅力 Lesson 15 思い出の写真 Lesson 16 科学技術の利用 Lesson 17 携帯電話は便利だけど…	
	Grammar Focus 4 前置詞 Activity for Communication 4 Writing a Blog		
	比較を表す	Lesson 18 犬派？ 猫派？ Lesson 19 思い出深いプレゼント	
	否定を表す	Lesson 20 インターネットの問題点	
	Grammar Focus 5 丁寧表現 Activity for Communication 5 Reading Graphs		
	Part 2	パラグラフを書く	Lesson 1 ロボットの有用性 Lesson 2 英語を学ぶ意義 Lesson 3 都会と田舎 Lesson 4 深刻な黄砂問題 Lesson 5 ベジタリアン
	Part 3	英語で発信する	Lesson 1 プレゼンテーション Lesson 2 ディスカッション Lesson 3 ディベート

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
109 文英堂	英 310	<p style="text-align: center;">UNICORN English Expression 2 代表著作者 塩川春彦・市川泰男</p>

編集の基本方針・教科書の特徴

本書は、様々な英文形式を用いて社会生活の根底といえる他者とのコミュニケーションをとる能力の養成に重きを置き、生徒の生きる力を育むことを主たる目標とした。題材は日常生活に密着したものから始まり、言語や環境問題に至るまで広く取り上げ、それぞれの題材について表現する方法を学習しながら多様な観点から考察し、論理立てて表現する能力を養うことを目指した。

上記目標の実現のために、コミュニケーションをするうえで重要かつ有益な表現を各所に配置し、段落を構成する様々な論理の展開パターンを学習するとともに、機能表現や文法に関する基礎的な知識及び技能について確認し、生徒が興味を持って学習に取り組むことができるよう多様な題材や内容を用意した。

本書はUNIT 1, UNIT 2, UNIT 3およびAPPENDIXで構成した。

UNIT 1は各課2ページ配当で、学習者の身近な題材を素材にして、5つの基本的なパラグラフ・パターンを紹介し、そのパターンを確認することを目標にした。各課はモデル文 TASK(要旨のまとめ) PARAGRAPH POINTS(解説) EXERCISES(練習)で構成した。

UNIT 2は各課4ページ配当で、トピック関連のひとまとまりの文をもとに機能表現や文法、トピック関連の語いも習得しながらトピックに関連した、ある程度のまとまりのある文を書くことを目標にした。各課はモデル文 TASK(リスニング) BUILDING BLOCKS(例文) Grammar Tip(文法) Vocabulary Building(語い) リスニング問題 EXERCISES(練習) SUPPLEMENTARY READING(発展)で構成した。

UNIT 3は各課4ページで構成し、UNIT 1, 2で学んできたことを生かしながら、英語の典型的なパラグラフ・パターンに従ってまとまった文を書くことを目標とした。各課の構成はモデル文 TASK(要旨のまとめ) PARAGRAPH POINTS(パラグラフ解説) FOCUS! (書くための注意点) TASK(要旨のまとめ) EXERCISES(練習) COMMUNICATION ACTIVITY(自己表現)で構成した。

2, 3課おきごとに付録BUILDUPを置いた。全8回とし、英語表現 で学習した主要な前置詞・副詞の発展として、似たような意味ごとに句動詞をグループ化してまとめた。

2, 3課おきごとに付録UNICORN INFOと銘打ち、スピーチやプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションについて、概要とそれらの活動を行う際の進め方についてまとめた。

巻末には付録として、長い文章の書き方のほか、句読法、文法のまとめ、表現集を用意した。

教材配当表

課	題 材	パラグラフ展開	機能表現	文 法
UNIT 1 Paragraph Reading				
1	English in Today's World	比較・対照		
2	Dr. Masukawa Toshihide	時間的順序		
3	Political Correctness	具体例，例証		
BUILDUP 1 継続・進展を表す句動詞				
4	Antismoking Measures	原因・結果		
5	Gap Period	意見と理由		
BUILDUP 2 開始を表す句動詞				
UNIT 2 Functional Expressions and Grammar for Use				
6	Aged Society		確実性・推量 / 予測・期待	時制の一致
7	Advertising and Psychology		結果 / 言い換え	関係代名詞
BUILDUP 3 中止・終了を表す句動詞				
8	Global Warming		類似 / 義務・必要	代名詞
9	Information Technology		部分否定 / 強調	動名詞，to 不定詞
10	Food		時を表す構文 / 情報の追加	接続詞
UNICORN INFO 1 Speech and Presentation				
11	Sports		付帯状況 / 頻度	名詞
12	Genetic Engineering		条件 / 驚き	There is 構文
BUILDUP 4 出現・発生，消滅を表す句動詞				
13	Sustainable Society		例示 / 要求	受動態
14	Globalization and Language		原因・結果 / 譲歩	and の用法
15	24-hour Society		譲歩 / 可能性	副詞
UNICORN INFO 2 Debate				
16	Universe		比較 / 賛成・反対	冠詞
17	University		後方照応 / 理由	冠詞
BUILDUP 5 増加・増大・程度の上昇 / 減少・縮小・程度の低下を表す句動詞				
18	Biodiversity		数量 / 失望	関係副詞
19	Art		譲歩 / 使役	時制
20	Medical Ethics		許可 / 禁止	動名詞，to 不定詞
UNICORN INFO 3 Discussion				
UNIT 3 Paragraph Writing				
21	Working Women	比較・対照		
22	Music Sales	時間的順序		
BUILDUP 6 完了・完全・徹底を表す句動詞				
23	Cutting-edge Medical Care	具体例，例証		
24	Paradox of the Digital Age	原因・結果		
25	The Culture of Guessing	分類		
BUILDUP 7 発見・遭遇を表す句動詞				
26	Body Language: Key to Success in Business	指示・手順		
27	Electronic Voting	意見と理由		
BUILDUP 8 出発，到着を表す句動詞				
APPENDIX				
1	Essay Writing, Summary Writing, Academic Writing Practice			
2	Punctuation			
3	LANGUAGE FOCUS			
4	EXPRESSIONS BASED ON FUNCTIONS			
5	EXPRESSIONS BASED ON TOPICS			
6	EXPRESSIONS BASED ON PATTERNS			

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
109 文英堂	英 311	<p style="text-align: center;">Grove English Expression</p> <p style="text-align: center;">代表著作者 倉持三郎・川端一男</p>
<p>編集の基本方針・教科書の特徴</p> <p>本書は教育基本法第2条に示された目標を達成することを目指し、平成21年改訂高等学校学習指導要領に基づいて編集された。特に学習指導要領に示された「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす」ことに配慮した。</p> <p>具体的には、各課にスピーキングやライティングの機会を設けたほか、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのルールやそれらの活動に必要な表現を学習し、実際に活用する場を設けた。教科書の題材については、英語表現の学習者に身近な題材から世界を広げ、さまざまな事柄について情報や考えなどを伝える能力の向上を図ることを目指した。</p> <p>各課の構成</p> <p>LESSON：全18課を6つのSECTIONに分け、それぞれのSECTIONに目標を設定し、段階的にさまざまな言語活動を行えるよう工夫した。各SECTIONの目標は次の通り。</p> <p>SECTION 1: 自分のことを表現してみよう（日記・メール・手紙を書く）</p> <p>SECTION 2: ほかにの人に発信してみよう（ポスター・学校新聞・ホームページの記事を書く）</p> <p>SECTION 3: スピーチを書いて、発表しよう</p> <p>SECTION 4: プレゼンテーションをしよう</p> <p>SECTION 5: ディスカッションをしよう</p> <p>SECTION 6: ディベートをしよう</p> <p>また、各課をSCENE 1, SCENE 2に分けた。SCENE 1ではイラストを使ったオーラルコミュニケーション活動を行う。SCENE 2では文構造・文法事項の確認を行った上で、上記の言語活動を行う。</p> <p>MEET THE WORLD：全6回とし、各課ひとつの国を取り上げた。各国の若者が書いた英文を読むことで各国の文化や日本とのつながりなどを学ぶことができる。また、MESSAGE FROM ABROADでは、メッセージを使ってパラグラフの書き方を復習する。</p> <p>SUPPLEMENTARY PRACTICE：全3回とし、エッセーの書き方を学ぶ。英語表現 および MEET THE WORLDで学習したパラグラフライティングを発展させ、さらに長い文章で自分の意見を書く場を設けた。</p> <p>文法のまとめ：巻末に文構造・文法項目の解説と練習問題を収録した。</p>		

教材配当表

§	課	場面	文構造・文法	機能表現
1	L1	家	SV, SVC, SVO / 疑問詞を用いた疑問文	準備が整ったことを伝える
	L2	教室	SVOO, SVOC / 否定	推測する
	L3	音楽	現在進行形 / 過去進行形	許可を求める
	MW1	タイ	パラグラフの書き方 パラグラフの構成	
2	L4	部活動	現在完了形 / 過去完了形	促す
	L5	学園祭	助動詞 / 助動詞+完了形	謝罪する
	L6	インターネット	受け身 / 助動詞+受け身	感想・印象・意見をたずねる
	MW2	ドイツ	パラグラフの書き方 比較・対照	
3	L7	友だち	比較 / 比較級+than any other	ていねいにものを勧める
	L8	スポーツ	動名詞 / 動名詞を用いた慣用表現	反対・賛成する
	L9	環境	to 不定詞 / to 不定詞の否定	喜びを表す
	MW3	アメリカ	パラグラフの書き方 空間の配列	
4	L10	旅行	分詞の形容詞的用法 / SVOC(=現在分詞・過去分詞)	感謝する
	L11	料理	SVO+to 不定詞 / SVO+動詞の原形	得手・不得手を表す
	L12	日本文化	SVO(=that 節) / SVOO(=that 節)	確認する
	MW4	ブラジル	パラグラフの書き方 描写	
5	L13	本	疑問詞+to 不定詞 / SVOO(=whether 節)	依頼する
	L14	留学	副詞節 / 分詞構文	好き嫌い・意見をたずねる
	L15	交通手段	形式主語 it / It is ~ whether など....	伝え聞いたことを話す
	MW5	モロッコ	パラグラフの書き方 指示・手順	
6	L16	日常生活	関係代名詞 / 前置詞の目的語になる関係代名詞	ていねいに依頼する
	L17	観光地	関係副詞 / 関係詞 (非制限用法)	現状への遺憾の意を表す
	L18	休暇	仮定法過去 / 仮定法過去完了	好ましくないことを伝える
	MW6	シンガポール	パラグラフの書き方 時間的順序	
	P1	笑いの効果	エッセーの書き方 例示・列挙	
	P2	人物紹介	エッセーの書き方 時間的順序	
	P3	買い物の方法	エッセーの書き方 比較・対照	

L は LESSON を , MW は MEET THE WORLD を , P は PRACTICE を表す .

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
220 スクリ	英・315	SCREENPLAY English Expression II 代表著作者 鈴木 達也

1. 編集の基本方針

生徒が幅広い知識と教養を身に付けることができるような題材を紹介することを目的に、食、買い物、診療、進路の選択・芸術・リサイクルといった日常的で身近なものから、家族（観）・法廷・差別と偏見といった社会的・観念的なものまで、幅広く取り上げた。またこれらに関連する映画のシーンのダイアログを各ユニットの導入部分に採用し、生徒の関心・問題意識を喚起することを意図している。さらに、それぞれの映画に登場する人物の個性を通じて、生徒が個人の価値を尊重し、自主を養う上で良いきっかけになることを期待している。このほか、我が国の伝統と文化を再認識し、自己の文化について正しく発信できるようになると同時に、アメリカ・イギリスを中心に、異なる文化・社会に触れて、異文化理解に役立てることを目指している。

2. 編集の趣旨及び留意点

編修の趣旨

実践的なコミュニケーション能力向上に力を入れる新学習指導要領の中で、「英語表現」が占める位置は、スピーキング、ライティングを中心とした「英語による発信力の育成」にあると考える。特に「英語表現」では、あるトピックについて自分なりの考えを整理し、それらの主張を支える根拠とともに、英語をコミュニケーションの道具として用いて論理的に話したり書いたりするための能力を身に付けることが求められる。当書は、これらの目標を実現するために、実際に学習者が英語を運用する際に欠かせない表現や実践的なスピーチの技術およびルールを修得することを意図している。

留意点

人間の言語活動は、単に言語能力だけで成り立っておらず、コミュニケーション能力をはじめとする、人間が持つさまざまな能力と相互に連携した総合体であると認識する。当書では、その認識に立って、具体的な使用場面がイメージできるように映画を有効的な教材として取り上げ、学習者自らの表現活動への動機づけを高めるとともに、より実践的な能力の向上につなげることができるように留意した。

3. 教科書の編成、教科書内容の組織、配列

当書は2ユニットごとに1つの映画を使用し、全部で8つの映画を楽しみながら英語を学習していく。各ユニットは、Warm Up, Hop, Step, Jumpの4項目から成り、Warm Up ~ Stepを必修、Jumpを応用と位置付けている。各ユニットの終わりで文法事項を学ぶとともに、2ユニットを終えるごとにプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、スピーチの言語活動を取り上げ、体系的に英語表現を身につけていくことができるように意図している。

4. 教育基本法との関連

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色
<p>第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健全な身体を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 偏見（ステレオタイプを含む）や差別を扱った映画を取り上げ、それについて考える機会を設けた。 ・ 「家族とは何か」というテーマを扱った映画を取り上げ、それについて考える機会を設けた。 ・ 「食」のあり方をテーマに扱った映画を取り上げ、それについて考える機会を設けた。 ・ 芸術について議論する課題を設けた。 ・ 吃音^{きつおん}という障害に立ち向かい、これを克服したジョージ6世のエピソードを題材に取り上げた。 ・ 影響力のあるアメリカの歴史上の著名な演説者と名スピーチを取り上げた。
<p>第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あきらめずに物事に取り組むことの意味と重要性について取り上げた。 ・ 一念発起して進学・キャリア形成を図る主人公の活躍を題材に取り上げた。 ・ 人生の選択について考える機会を設けた。
<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の権利について考える機会を設けた。 ・ 法廷において真実を追求していく主人公の姿を題材に取り上げた。 ・ 取材と実験を通じて、問題の責任の所在を追求していく主人公の姿を題材に取り上げた。 ・ 王室の一員として責任を果たすべく、障害の克服に取り組む主人公の姿を題材に取り上げた。
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛乳パックのリサイクルの有効性をプレゼンテーションのトピックに取り上げた。
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外に紹介したい日本の文化・習慣をプレゼンテーション用トピックの一例に挙げ、これについて発表・説明するように課題を設けた。 ・ 日本の伝統行事について英語で説明する課題を設けた。また例として「七五三」の説明を示した。 ・ 日本に滞在する留学生を通して、国際社会貢献について学ぶ機会を設けた。

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
226	英II	ATLANTIS English Expression II
チアーズ	316	代表著作者 Steven Mitchell

■編集の基本方針及び編集上特に留意した点又は特色

本書、ATLANTIS English Expression IIは、文法を基礎とした英語でのコミュニケーションのための教科書です。各章毎にひとつの明確な文法ポイントに焦点を置き、生徒が実際にそれを有意味に使い、生徒同士、またALTや教師と会話の練習をする機会を多く設けています。つまり本書の文法はコミュニケーションの取り方を学ぶためのツールなのです。①各章の文法ポイントは、自然で分かりやすい例文で示されます。組み合わせや、複数の中から回答可能なシンプルなエクササイズから始まり、会話やショートストーリーへと発展していきます。全てのエクササイズには意味があり、次のアクティビティーへとスムーズに導きます。②本書は、数多くの写真を使い、生徒が文法を自然な文脈とそれぞれの場面でどのように使うのかをより理解しやすくしています。写真はとてもカラフルで美しく、生徒に英語を学ぶことに対する刺激を与え、文化の違いを分かりやすく理解させる要素を持っています。③4技能（読む・書く・聞く・話す）全てを公平にバランス構成しているため、生徒はあらゆる角度から文法ポイントが得られます。④本書オリジナル、生徒がペアになって練習しあう方法 **Self Checking in Pairs**。（参考）クラス全体で答えを確認後ペアになります。ひとり(S1)は解答を見ながら、もうひとり(S2)は次ページにある写真からイメージし、自らの力で答えていきます。その際、S1はS2にヒントを与えS2がフルセンテンスで正しく答えられるよう手助けすることができます。S1は言わば教師の役割を担います。常に役割を交代して行わせる本書オリジナルの方法は、レベルの異なる生徒間であっても、それぞれが相手を正しい答えに導く手助けをすることが出来ます。つまり、全てのペアに“教師”が存在することになるのです。教師の役目が果たせることで、より自信も得られます。また、お互いの答えを注意深く聞いて、助け合いながら学習することの大切さを実感させることができます。よって、英語を学ぶことに対するモチベーションに繋げることも期待できるでしょう。

■教科書の編成、教科書内の組織、配列

【前章の復習を多くの次章に含み、それぞれの関連性を熟慮した編成】

- Lesson 1 — 過去形 - was / were
- Lesson 2 — 過去進行形 - 過去形と過去進行形の比較
- Lesson 3 — 比較級
- Lesson 4 — 最上級 - 比較級のルールを使用する
- Lesson 5 — 動名詞句 - 主語と目的語の位置と比較級への発展
- Lesson 6 — 第1条件節 - if / will
- Lesson 7 — 第2条件節 - if / would
- Lesson 8 — Wish - wish + if / would を使った仮定法
- Lesson 9 — 量をあらわす副詞 - too much / too many, not enough, wish, if / would の復習
- Lesson 10 — 現在完了形 最近の出来事
- Lesson 11 — 現在完了形 経験
- Lesson 12 — 現在完了形 継続 for / since
- Lesson 13 — 現在完了進行形
- Lesson 14 — 過去完了形 Lesson 10 - 13で学習した過去分詞形を使った過去完了形
- Lesson 15 — 第3条件節 - if / would have ~ , 過去完了形の復習
- Lesson 16 — 後悔を表す基本形 (I should have~ / I wish I had~ / If I had~ / I regret~)
- Lesson 17 — 受動態 - was / were
- Lesson 18 — 受動態 - さまざまな時制 (has been / is being / will be)
- Lesson 19 — 付加疑問文 - 学習した全ての時制を使用する
- Lesson 20 — 関係詞節 - 学習した全ての時制を使用する

■学習指導要領との関連等

本書の最終目的である **“the art of communication”** (コミュニケーションの取り方)。これが意味するものは、1. 会話の際のアイコンタクト 2. 適切な音量で話すこと 3. 質問ができること (日本の高校生の多くが英語での質問を苦手としています。しかし、質問をすることは好奇心を高めると共に、会話を始める基本となります。) 4. 注意深く聞き、適切に答えること 5. 生徒同士の助け合いながらの学習 6. 個別にまたはペアやグループでの議論を可能にする それらのスキルは、英語の場面のみならず、生徒が進学したり、やがて大人になって社会に出た時等、あらゆる日常生活の場面で応用できるものです。英語の授業は、それらのスキルを教える絶好の場なのです。本書の self-checking in pairs と、数多くの自然な英語の質問を通して、またエクササイズの手引きや説明 (アイコンタクトやはっきりと適切なボリュームで話すこと) などから繰り返しられる **the art of communication** に焦点を置くことで、全ての生徒が進学や就職、日本語、英語に限らず、社会に出て役立つ人とのコミュニケーションの取り方を、英語の授業という素晴らしい時間を通して身に付けさせることができます。加えて本書は、教師が英語での授業に備えるための材料としても効果的であるということです。どのようにしてより英語で教えるか、またいかに短く有効なフレーズで教え、有意義な授業を展開していくかを示しています。